

まぶら



2020 Vol.76

表紙写真：古関裕而モニュメント(福島市)



理事長あいさつ

社会福祉法人福島県社会福祉事業団

理事長

太田 健三

初冬の候、皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

まずは、何といっても「新型コロナウイルス感染症」について話さなくてはなりません。今年三月の感染拡大から半年余りが経過しましたが、未だに全国で多くの感染者が発生しており、予断を許さない状況が続いております。当法人としては、この新たな感染症について、国等からの情報を得ながら「施設には感染症を絶対に持ち込まない」という従業員の強い意志を持って、さまざまな感染防止に努めて参りました。今のところ大事には至っておらず、これも、利用されている方々、その御家族、関係機関の皆様からの御協力があればこそと感謝しております。

このようなコロナ禍の中、社会福祉事業の介護者等は、人々の必要不可欠な労働者を意味する「エッセンシャルワーカー」の一つとして注目を集めております。これまでも利用されている方々の日常生活を守るため、事業継続は使命と考えてきましたが、改めて、この新型コロナウイルスから、お客様は当然のこと、職員も守らなくてはならないと思いを強くしたところでございます。

次に、「福島県浪江ひまわり荘仮施設建設事業」につきましましては、今年度末の竣工に向けて建設工事が順調に進められております。近年の大きな課題の一つでありましたので、完成が待ち遠しい限りでございます。また、福島県の指定管理施設である「福島県けやき荘」及び「福島県がしわ荘」の建替に向けた計画についても、現在、県による建設用地の造成工事が来年8月までの予定で進められております。この計画が円滑に進むよう、引き続き、県及び関係機関との連携を図って参りたいと考えております。

最後に、今回の新型コロナウイルスを含め、社会状況は日々変化していきますが、これまでの経験をもとに地域社会に貢献することは、何も変わらないことと考えております。今後も利用されている方々の「安全・安心」を第一に考え、地域の一員として、法人の使命を果たして参りますので、皆様には一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

福島県浪江ひまわり荘 仮施設建設事業



▶ 新たな仮施設の建設について

福島県浪江ひまわり荘は、平成23年3月11日の東日本大震災とそれに伴う原発事故により、西郷村の総合社会福祉施設「太陽の国」に避難し、平成24年3月から応急的なプレハブ仮施設での運営が始まり、今もなお、その状態が続いております。

現在の仮施設は、あくまで応急的な建物であることから、高齢化が進む入所者にとって狭隘な居住（支援）環境であることなどの理由から、改めて、入所者の安全・安心を守り、快適に生活が送れるような仮施設を建設することとなりました。

▶ 事業内容

救護施設「福島県浪江ひまわり荘」……定員80名

▶ 敷地及び建物

- 敷 地 7,955.42㎡
- 建 物 鉄筋コンクリート造平屋建
建築面積 3,136.71㎡
- 居室等
 - 1床室(9.01㎡)……………8部屋
 - 2床室(12.24㎡)……………20部屋
 - 2床室・要介護(13.94㎡)……4部屋
 - 3床室(20.06㎡)……………8部屋
 - 特別居室(15.12㎡)……………1部屋
 - 食堂(225.00㎡)
 - そのほか、集会室、一般・特別浴室、
作業室、スタッフ室、事務室、会議室など

▶ 設計のコンセプト

「多様な入所者を受け入れる多様な空間」

救護施設は社会のセーフティネットとして重要な役割を担っています。施設の特性上、多種多様な社会的弱者が自立を目指す中で、一つの施設でありながら一般社会と同じように様々な空間が混在する居場所をつくり、入所者が社会から隔絶された生活であると感じない暮らしができるように考え、設計されました。

また、入所者の意思でコミュニティを選択しながら共生していくことで自立へのきっかけとなるような居場所を目指しています。

▶ 開所時期 令和3年4月開所予定



「基幹相談支援センターけんなん」が 移転しました。

Interview!



基幹相談支援センターけんなん
所長 佐藤 隆幸

「基幹相談支援センターけんなん」は、平成二十六年四月、太陽の国管理センターにある法人本部に併設で開所されました。今年三月までの六年間、法人の大きなバックアップのもと、各関係機関の支援、協力を頂きながら、総合相談、権利擁護に関する成年後見制度支援、障がい者虐待防止センターの業務など、実績を積み上げてきました。

今年四月、地域生活支援拠点等整備事業に係る地域生活支援コーディネーター事業の受託をきっかけに、地域の方が身近で、相談に来やすい場所である白河市内の泉南障がい者就業・生活支援センター（まごころステーション）の事業所に移転いたしました。この移転を機に、両センターが、これまで以上に連携協力し、障がいのある方を広く支援できる体制になると考えております。



移転先：白河市道場小路91-5
第6大成プラザ1階

地域生活支援拠点等整備事業は、今年度、新たな取組みとして各市町村で施行されました。この事業は、障がいのある方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、ご本人の高齢化・重度化や「親亡き後」を見据えた支援が切れ目なく提供でき、地域全体で支える仕組みを構築することです。当センターは地域生活支援コーディネーターの業務として、まず、親子を見据えた方の掘り起こしを中心に取り組んでいます。

今後に向けては、これまでの障がいの関係機関との連携に加え、地域包括支援センター等の高齢分野や民生児童委員の方々など、幅広い連携が求められます。地域の相談支援の中核的な役割として取り組んでいきたいと思っております。

「基幹相談支援センターけんなん」とは…

白河市・西郷村・泉崎村・中島村・矢吹町からの委託事業として、地域の関係機関との緊密な連携のもと、障がいに関する相談に応じたり、支援環境等を整備する地域自立支援協議会や研修会等を開催し、地域の相談支援の中核的な役割を担っています。

「地域生活支援コーディネーター」とは…

生活支援コーディネーターは、障がいのある方やその御家族などから生活全般に関する相談に応じ、必要な情報提供や福祉サービス利用支援、緊急時に対応可能な相談支援を実施します。



- 1) 自立支援協議会全体会の様子
- 2) 基幹相談支援センターけんなん
泉南障がい者就業・生活支援センター



外部専門家によるサービス 検証の取組み

当法人では、お客様主体のサービス提供の推進のため、施設サービス自己評価や満足度調査の他、福島県福祉サービス第三者評価事業の受審、外部専門家による施設サービスの検証事業に取り組んでいます。

外部専門家が施設サービスを検証する目的は、気付かないうちに、職員中心のサービスになっていないか、お客様の声をいかに反映されているかなど、第三者の視点から意見を求め、サービスの質の向上を図ることであり、平成二十八年度より実施しています。

昨年度まで、六施設二事業所で行われ、今年度も福島県運営適正化委員会委員長である村田清氏に障害者支援施設二施設を検証して頂き、施設視察後、活発な意見交換が行われました。

今後も外部専門家による意見を頂き、求められるニーズに柔軟に対応し、更なるサービスの質の向上に努め、利用される皆様の笑顔や満足に結びつけられるように努めていきたいと考えています。



コロナ禍の中でハラスメントのない職場をつくる

当法人では、これまでのハラスメント対策を見直し、今年度からパワーハラスメント等を含め、すべてのハラスメントを禁止する規定を整備、職員への周知を行いました。今後の取り組みが重要であると感じているところです。

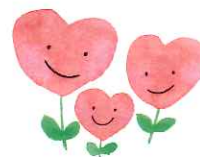
現在、新型コロナウイルスのまん延が続く中、感染者やその家族、医療・福祉従事者などに対する不当な偏見、差別やいじめなどを指す「コロナハラスメント」が深刻化しています。

これまで、社会福祉施設を運営する法人として、最も重要な権利擁護に対する取り組みを続けてきたことから、職員の人権意識は高いものと信じていますが、この異常事態による社会的な不安から、知らないうちにハラスメントとな

るような言動をしてしまう場合もあるかもしれません。

この状況下、行政をはじめ、各方面で「恐れるのはウイルスであって、人ではない。」「感染した人や、その周囲で働いている人たちに対して、差別ではなく、ねぎらいの言葉とエールを」など、差別のない社会を求めるメッセージが多く発信されています。

一人一人が、これらのメッセージを受け止め、お互いを思いやり、ハラスメントのない職場をつくることができればと思っています。



役員紹介

職名	氏名	役職
理事長	太田 健三	一般財団法人太田総合病院理事長
副理事長	鏡 敬文	専任
常務理事	穂積 富知雄	福島県社会福祉事業団事務局長
理事	高橋 廣志	西郷村長
理事	竹之下 誠一	公立大学法人福島県立医科大学 理事長兼学長
理事	今野 静	公益社団法人福島県看護協会長
理事	戸田 光昭	福島県保健福祉部長
監事	有賀 秀晴	(有)有賀会計センター代表取締役
監事	本田 陽子	学識経験者

評議員紹介

氏名	役職
安藤 保寛	福島県県南保健福祉事務所 健康福祉部長
伊藤 公一	白河市保健福祉部長
大橋 勝男	白河市社会福祉協議会常務理事 兼事務局長
小木 政夫	一の又行政区代表
熊川 恵子	福島県社会福祉協議会事務局長
佐川 滋	社会福祉法人清峰会理事 兼障害者支援施設さざなみ学園施設長
鈴木 且雪	西郷村教育委員会教育長
中山 隆男	西郷村社会福祉協議会常務理事

令和元年度 事業報告

新型コロナウイルス感染症については、全国的に感染が拡大する状況から、3月に事業団感染症対策委員会で対応を協議し、外来者の制限や手洗い・消毒等の感染防止対策を徹底することとした。また、職員に対しても、健康管理の徹底や不要不急な外出の自粛等、施設職員としての自覚ある行動を求め、「施設には新型コロナウイルスを絶対に持ち込まない」という強い姿勢で感染防止に万全を期すこととした。

福島県浪江ひまわり荘仮施設建設事業については、設計業者と緊密な協議を重ね、お客様の安全性や快適性等に配慮した実施設計を完成させ、それに基づき、社会福祉施設等災害復旧費の国による査定を受け、補助額が決定した。更に、建設工事を早期に着工させるため、3月に一般競争入札により建設業者を選定した。

また、指定管理施設である福島県けやき荘及び福島県かしわ荘の改築については、県の「太陽の国障がい者支援施設整備事業」により進められており、事業団は、指定管理者の立場から、お客様にとって、より安心・安全な施設となるよう、積極的に基本・実施設計の策定に参画した。

次に、老朽化した自主運営施設の改築については、当該施設から選出された委員を含む老朽化施設改築計画策定委員会により、改築等の優先順位、建設場所、資金計画及びスケジュール等からなる老朽化施設改築計画を策定した。今後は、計画に基づき、着実に実行できるよう、県等、関係機関との調整を進めるとともに、一層の財政基盤の強化に努めることとした。

更に、法人運営の根幹となる福祉人材の確保については、学校訪問や職場見学会などの機会を通じて、積極的な情報発信に努め、新採用職員10名を確保することができた。

また、次世代を担う専門性の高い職員の育成を更に進めるため、各種研修の充実や介護福祉士等の資格取得支援に取り組んだ。

一方、地域福祉については、太陽の国交流センターにおいて、地域交流の拠点として西郷村や絵画サークルなど、地域の団体・住民等と連携した様々な行事を開催しました。また、「福島県被災地介護施設再開等支援事業」により、継続して相双地区の高齢者施設へ職員を派遣するとともに、県と締結した「福島県災害派遣福祉チームの派遣に関する協定」に基づき、被災地へ職員を派遣するなど、地域貢献の役割を果たした。

令和元年度 決算報告

貸借対照表

(単位:円)

資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	1,323,016,081	流動負債	652,407,623
		固定負債	722,097,773
固定資産	6,560,002,197	負債の部合計	1,374,505,396
		純資産の部	
基本財産	2,195,135,573	基本金	10,000,000
		国庫補助金等特別積立金	1,454,927,022
		その他の積立金	3,209,959,656
その他の固定資産	4,364,866,624	次期繰越活動増減差額	1,833,626,204
		(うち当期活動増減差額)	232,964,499
		純資産の部合計	6,508,512,882
資産の部合計	7,883,018,278	負債及び純資産の部合計	7,883,018,278

資金収支計算書

(単位:円)

勘定科目	決算額
大区分	
事業活動による収支	
事業活動収入計	5,569,605,971
事業活動支出計	5,212,223,767
事業活動資金収支差額	357,382,204
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	20,000
施設整備等支出計	114,739,037
施設整備等資金収支差額	△ 114,719,037
その他の活動による収支	
その他の活動収入計	307,536,746
その他の活動支出計	862,836,156
その他の活動資金収支差額	△ 555,299,410
当期資金収支差額合計	△ 312,636,243
前期末支払資金残高	1,292,662,477
当期末支払資金残高	980,026,234

事業活動計算書

(単位:円)

勘定科目	決算額
大区分	
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	5,539,228,165
サービス活動費用計	5,331,604,478
サービス活動増減差額	207,623,687
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	30,377,806
サービス活動外費用計	6,733,096
サービス活動外増減差額	23,644,710
経常増減差額	231,268,397
特別増減の部	
特別収益計	1,718,464
特別費用計	22,362
特別増減差額	1,696,102
当期活動増減差額	232,964,499
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	2,069,042,153
当期末繰越活動増減差額	2,302,006,652
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	290,856,000
その他の積立金積立額	759,236,448
次期繰越活動増減差額	1,833,626,204

「事業報告」及び「決算」についての詳細は、
福島県社会福祉事業団ホームページ
(www.fukushima-sj.jp)の
情報公開ページでご覧頂けます。



表紙

古関裕而生誕100周年記念モニュメント (JR福島駅東口)



この銅像は、「栄冠は君に輝く」「オリンピックマーチ」「六甲おろし」など国民に愛される数々の名曲を作曲した昭和を代表する偉大な作曲家である古関裕而氏の生誕100周年を記念し、平成21年、JR福島駅東口広場に設置されました。時報として、古関メロディーが流れ、市民の憩いの場所となっています。

古関裕而氏は2020年3月～11月放送のNHK連続テレビ小説「エール」の主人公であり、当事業団が運営する特養「飯坂ホーム」のある福島市の名誉市民第1号ともなっています。

当事業団では、昭和53年、福島県総合社会福祉施設「太陽の国」の歌を寄贈していただきました。



古関裕而氏直筆の楽譜



太陽の国の歌「明日も太陽があるから」

作詞：小山由紀夫／作曲：古関裕而／編曲：石井祐二

- | | |
|--|---|
| 一 草はふかい雪にうもれても
春になると花が咲く
白鳥はつめたい雨にうたれても
北の故郷わすれない
明日も太陽があるから | 二 風はよごれた街ふきぬけて
美しいうたわすれない
うき雲はなかまの群はぐれても
ひとり空の旅をする
明日も太陽があるから |
|--|---|

ご利用案内

太陽の国交流センター



- ◆ご宿泊
和室：7室 洋室：2室
- ◆会議・研修・休憩等
研修室または和室
利用時間 9:00～21:00

福島県勤労身体障がい者体育館



- ◆定休日
毎週火曜日・祝祭日
- ◆利用時間
8:00～22:00
フットサルの利用もOKです！

ボランティア募集

事業団では、多様なボランティアを随時募集しています。お話相手・習字・音楽演奏・イベントスタッフ・環境整備など活動内容は様々です。興味はあるけれど何をしたらいいかわからない方も、お気軽にご連絡ください。



歌のボランティア

お問い合わせ先 事業管理部 施設事業課 ☎ 0248-25-3020



まごころ 2020/VOL.76

発行 社会福祉法人福島県社会福祉事業団
福島県西白河郡西郷村大字小田倉字上上野原5-3
TEL 0248(25)3100 FAX 0248(25)4659
URL <http://www.fukushima-sj.jp>
発行日 令和2年12月1日